

ことが課題として残る。

#### (改善の具体的方策)

教育上の効果を評価し、高めていくために以下のことを検討・実施していく。

1. まず、各科目で何が達成されたら合格とするかという基準を作り、少なくとも学科内でそのコンセンサスを形成する。
2. 各科目の成績評価基準をシラバスに明記することを徹底して、教員の意識を高める。
3. 各科目の合格率、平均点、成績の分布等を分析し、不適切な評価が行われていないかどうかを点検する仕組みを確立していく。
4. 短期的な視点だけでなく、長期的な視点から学生に長く愛される教育システム作りにつとめる。
5. 同窓生とのコミュニケーションも視野に入れて改革を進めていく。
6. 成績優秀者や教職免許希望者に対する履修単位数制限のあり方について検討していく。
7. 2005年度からGPA制度を導入し、優秀な学生に対して、新たにGPAによる顕彰を行う。

#### 7.1.4.5 教育の質の向上

##### 【評価項目 6-5-1】 教育改善への組織的な取り組み

- (必須要素) 学生の学修の活性化と教員の教育指導方法の改善を促進するための措置とその有効性
- (必須要素) シラバスの作成と活用状況
- (必須要素) 学生による授業評価の活用状況
- (必須要素) FD活動に対する組織的取り組み状況の適切性
- (選択要素) FDの継続的实施を図る方途の適切性
- (選択要素) 学生満足度調査の導入状況
- (選択要素) 卒業生に対し、在学時の教育内容・方法を評価させる仕組みの導入状況
- (選択要素) 高等教育機関、研究所、企業等の雇用主による卒業生評価の導入状況
- (選択要素) 教育評価の成果を教育改善に直結させるシステムの確立状況とその運用の適切性

##### <2003年度に設定した目標>

1. FD活動を組織的・継続的に実施するための仕組みを作る。
2. 学生による授業評価や教務アンケートを授業にフィードバックする仕組みを作る。

#### (現状の説明)

教員の教育指導方法改善のために、全学の教務委員会の下にFD部会が置かれており、毎年6月と11月を「FD月間」とし、「他人に勧めたい授業」のアンケート調査、FD講演会、オープン授業（教員による他の授業の参観）などを実施しているが、理工学部では参加者が少なく、実質的にはほとんど機能していないのが現状である。

シラバスについては、全科目についてシラバスが作成され、インターネット（学内）から参照できる。さらに、情報科学科では講義資料の配信と連動し、学外からも参照できるシラバスを作成している。

学生による授業評価は、WEB上でのアンケート、授業中に行う紙ベースでの評価など、

何らかの形で実施することが義務付けられているが、現時点ではその結果の活用は教員に一任されている。

(点検・評価の結果)

授業アンケート、FD月間等の取り組みはあるが、調査結果の活用がほとんど行われておらず、参加者が少なく、課題の多い状況である。

(改善の具体的方策)

全学的には、2005年度より学生による授業評価が統一されたフォーマットによってすべての科目で実施された。評価結果とそれに対する教員のコメントはインターネットで学内に公開される予定で、これらの評価結果を活用して授業の改善に役立てていく。また、2005年度より学部にFD委員会が設置された。学生参加によるFDの全学的なシンポジウムの開催も予定しており、授業改善への気運が高まっている理工学部も、さらに進んだ取り組みについて検討していきたい。

#### 7.1.4.6 課程修了の認定

**【評価項目 6-6-2】 課程修了の認定（大学3年卒業の特例）**

（選択要素）3年卒業制度措置の運用の適切性

<2003 年度に設定した目標>

1. 柔軟で多様な認定システムの確立を目指し、ジョイント・ディグリー制度、三年卒業制度の導入を検討する。

(現状の説明)

2005年度に飛び級の実績（生命科学から1名）があるが、卒業ではなく退学して大学院へ進学する形をとっている。物理学科数学専攻でも現在学部の期間短縮を検討しているが、履修単位数制限を厳密に適用すると、3年間での卒業はむずかしい。

(点検・評価の結果)

飛び級して大学院進学する制度は生命科学科で導入されているが、まだ十分整備されたものになっていない。

(改善の具体的方策)

3年卒業制度を視野に入れて、成績優秀者に対して履修単位数制限を緩和する等の措置を検討していく。